

市電の会（札幌）

平成2年12月設立 賛助会員 個人93名、15団体（令和5年12月時点）

会費（年会費）個人会員 1,000円／1口、団体会員 10,000円／1口

市電の会は、市民一人一人が市電に親しみ、市電をとおして相互の連帯意識の高揚を図るとともに、市電沿線の活性化を促進し、うらおいのあるまちづくりを推進することを目的として活動しています。

主たる事業・活動として、市電とその沿線地域の活性化を図るため、北海道を応援するキャラクターである「雪ミク」で装飾した車両を運行する「雪ミク電車運行事業」を毎年、冬期間限定で実施しています。

また、（一財）札幌市交通事業振興公社主催の市電フェスティバルに出展し、市電の会の取組や市電やその沿線地区の魅力を紹介しています。



▲雪ミク電車 2024

このほか、会報誌「市電のふるさと」を年に1回発行し、市電の会の活動や市電に関する情報発信等を行っています。

なお、令和4年に、市電をモチーフにした札幌市中央区のマスコットキャラクター「中ウオークん」が誕生しました。これを記念して、キャラクターをラッピングした車両「中ウオークん号」が、令和4年12月から令和5年9月まで運行されました。



▲中ウオークん号

NPO 法人全国鉄道利用者会議

1997年4月設立

会員 約40名

会費 年2,000円

本会は、規制緩和・少子高齢化・地球環境重視の社会において財政負担と環境負荷が低く、快適な交通インフラとしての鉄道の役割が重要であると考え、利用者として「かしこい」勉強会やシンポジウム・「たのしい」イベントの開催など、全国各地の市民団体の皆様とスクラムを組みながら活動しています。

【前回路面電車サミット以後の活動状況】

コロナ禍で都道府県をまたぐ移動や対面での活動が制限されていた中、会員が所属する地域団体（金沢・LRTと暮らしを考える会、RACDA高岡、呉西地区交通まちづくり市民会議、石北沿線ふるさとネットワーク、オホーツク鉄道歴史保存会等）の会合等に可能な範囲で参加し、併せて、オンライン環境の普及に協力しました。

また、2022～2023年に発生した豪雨による鉄道の被災状況調査を行いました。